

みづ

No.38
道彩展機関紙

道彩展機関紙“みづ”第38号
発行 北海道水彩画会
道彩会代表 小堀 清純
札幌市西区発寒5条8丁目
13-24-1101号
年1回発行



<http://www.ne.jp/asahi/so-bi/net/dousai/>

第41回

道彩展を終えて

2022年8月17日
8月21日
札幌市民ギャラリー

多様な表現

道彩会代表 小堀 清純

第41回道彩展は一四一点の作品が搬入され、厳選した九七点が開催であったが入場者は約八〇〇人を超え無事に幕を閉じました。審査は率直な意見を交わす中、慎重に実施しました。

総評として、出品者は減少しているが全体的にレベルが向上しており、個性豊かな作品が増え具象・抽象を問わず多様な表現の作品が集まり充実した展覧会となりました。入選者の傾向として写真画が多いが、若い作家の自由な表現による作品も大いに歓迎しています。奮って応募してください。

応募者の減少の問題については出品料の見直しや宣伝活動を強化していきます。

最後に会員・会友が競い合い、道彩展がますます発展するように祈念しております。

第41回道彩展受賞者

道彩展賞

若杉 博文(札幌)

北海道知事賞

西方 礼子(苫小牧)

札幌市長賞

井利元敬子(石狩)

札幌市教育長賞

窪田美代子(七飯)

北海道新聞社賞

林 明夫(苫小牧)

八木賞

原 貴子(石狩)

伸子賞

田中 孝昌(当別)

奨励賞

朝霧 椋介(札幌)

島田 光宏(札幌)

西 孝明(江別)

福島 明子(札幌)

会友努力賞

加藤 政史(札幌)

亀倉安規子(札幌)

会員推挙

石井 慶子(江別)

林 正行(札幌)

松山 頌子(札幌)

会友推挙

高田登志子(札幌)

原 貴子(石狩)

福島 明子(札幌)

たしかな歩みを 続けている道彩展

新道展会員 グループ環会員
香取 正人

今年もコロナの影響が続き不安な中での開催になったが、会場に入ると意欲的な作品が適切な間隔で展示され、良い展覧会になったことを喜びたい。

水彩絵具は身近な画材であるが、多様な表現にも対応できる可能性を持っている。この会は以前から自由な表現を大切にという共通の認識もあり、独自の表現世界を追求し続けている会員も多い。従って水彩の世界を広げた多彩な作品に出会える楽しい展覧会にもなっている。

一方、一般出品者の場合は具象そして写生を中心とした作品が多くなるのは当然でもあろう。中には水彩絵具の扱いに習熟した人もいるが、描くことを楽しんでる人など多様な傾向の出品者が見られるのも面白い。

このような多彩で自由な作品



「白い講堂Ⅰ」若杉博文



「手芸の調べ」井利元敬子

が並ぶことは会場内に楽しさや身近さが生まれ、水彩画に親しむ人が増えるように思える。そして、出品者がこの会から新鮮な刺激を受け、自分の表現方法や方向に何かの収穫を得られることがあれば、より質の高い会に向いそうである。

個々の作品にふれてみたい。道彩展賞の若杉博文は、素直な描写で対象を捉えている。知事賞の西方礼子、会友努力賞加藤政史も素直な情景描写と丁寧な色使いで落ち着いた雰囲気を持たせている。三者とも確かな技術を持っているが、もう少し対象に迫る描写が欲しい。

奨励賞福島明子は軽快な筆遣いが成功し、市教育長賞窪田美代子は難しい構図に苦勞しながらも水彩の爽やかさを出そうと努力している。道新賞林明夫の人物描写も迫力があり魅力的。伸子賞田中孝昌の作品は見る人を絵の中の世界に引き込む描写力があり佳作。会員推挙松山頌子は不透明水彩の重厚さと奔放な筆の動きが独特の魅力を作りだしている。

受賞者以外でも廃屋の楠康男、冬の木立を描いた三尾画子、瀧を描いた村井美智代などの写実力に魅かれる。いずれも水彩絵具の特色を生かした描写力を持ち、今後が楽しみ。できれば大きな画面にも挑戦して欲しい。



「安らぎの里」加藤政史

一方、会員はそれぞれに独自の作風を見せている。代表の小堀清純は大胆な構成で静物画の新しい視点を見せた。中田やよひ、工藤和子、林田理栄子などベテランも自己の表現世界を更に深めようとする姿勢を感じるし、鈴木いずみは軽快な筆遣いで活気のある画面を創りあげている。

抽象に取り組んでいる川上睦子、寺西冴子は強靱な画面構成の中に繊細な情感が見られるし、青木美樹の爽やかな空間も良い。その他にも糸塚章子、山田陽子は現在も新しい表現方法を模索し続けるなど、会員が意欲的な姿勢を見せ続けている。

この会は本展の他に研鑽や交流の場を企画し全員の向上を目指している。今後の更なる発展を心から期待したい。

受賞者の声

若杉 博文

昨冬に描いた10号風景画の中から公募展用に三点を選び、早春から少しずつ制作を始めました。50号を初めて描きましたが透明水彩大作の迫力不足に陥らない様に、自分なりに工夫を重ねて完成に至りました。

白壁が美しい北大古河講堂を描いた連作は、樹木の重なりや光と陰の表現を大切に、空気感や詩情性が出ることを意図した。透明水彩・具象画の道彩展賞は初めてとのこと、大変光栄です。

昔々、建築工学科の演習で故小川原脩先生にデッサンの基礎を、今は教室の先生に構図や着色を教わっています。これを糧とし、自らの個性と感性を表現した作品を描きたく思います。

窪田美代子

この度は名誉ある賞を戴きありがとうございます。素晴らしい作品の数々の中で「何故、私が」と思いました。私にとって天変地異です。私が水彩画と出会ったのは60才前半にバドミン



「湖上のレストラン」窪田美代子

トンの練習で怪我をして入院中にもう運動ができないと思いかわりに何かしようとして水彩画教室に通うのがきっかけでした。教室では諸先輩の絵に魅了されて私を夢中にさせてくれた事に感謝しています。この絵の風景は大沼のあるレストランで船上でも食事ができる所です。これからも日々精進して皆様に少しでも近づいて良い絵を描ければと思っています。

高田登志子

初めに、絵の先生、教室の皆様、絵を通じて出会えた方々に心より感謝を致します。皆様にご指導と助言を頂き、楽しんで



「秋を惜しむ」高田登志子

絵を続ける事が出来ました。

今回の私の作品は、全体に透明水彩の青色を大胆に使い、かなり冒険をしました。私としては、新しい作風で晩秋の物悲しさを表現してみました。こんな言い方は、少し気恥ずかしいのですが、モチーフと私のその時の心情が、合致した様な気がします。これからも、色々なモチーフ、技法、画材に挑戦して、私の思いが、ストレートに伝わる

絵を描ける様になりたいです。皆様、どうぞ今後とも宜しくお願い致します。



「独(ひとり)」林 明夫

第12回 研究会

6月4日(土)13時から札幌テレビ塔2階会議室において研究会を開催しました。講師に北海道版画協会会員の西村一夫先生をお招きして「色と形と」のタイトルに基づきお話しいただき、ホワイトボードやカラーパネルを利用してわかりやすく説明して下さいました。

アカデミックな内容は久しぶりに絵画制作を学ぶ緊張感を味わえたように思います。

50名近くの参加数は、会員が口コミで呼びかけてくれたおかげです。今後は内輪から一般の方々へ拡大宣伝する方向で活動していきたいと考えています。

'23 行事計画

第42回委員会友展

2月21日(火)〜2月26日(日)
ギャラリー大通美術館

研究会 内容未定

第42回道彩展

9月20日(水)〜9月24日(日)
搬入：9月16日(土)

札幌市民ギャラリー
函館展 未定
江別展 未定

第42回道彩展 作品公募

- 会期 2023年9月20日(水)〜9月24日(日)
 - 会場 札幌市民ギャラリー
 - 搬入 2023年9月16日(土) 10:00〜18:00
- <http://www.ne.jp/asahi/so-bi/net/dousai/>

道彩展に関するお問い合わせ

道彩会事務局 糸塚 章子

札幌市東区本町1条6丁目7-11
(011)782-5781

函館地区連絡所 寺岡 弘子
函館市西旭岡町2-23-3
(0138)50-2611

江別地区連絡所 中島 恭代
江別市野幌若葉町46-31
(011)385-4217

編集後記

コロナ感染症が増えて一向に減る気配のない8月の開催となりました今年回道彩展は、授賞式を市民ギャラリーで行うなどの変更はありましたが、無事本展を開催することができました。多くの方々のご協力のお陰で「みず」をお届けできることに感謝いたします。 竹本・渡辺